

うつくしま子ども夢プラン(後期行動計画)次期計画に関する意見と県の考え方(パブリックコメント)

資料3

No	該当箇所	意見(施策の提案)	県の考え方	関係課
1	4ページ 4計画の推進体制～2 民間との連携～	民間に対するまなざしが極端に分化しています。 ・医療・福祉・教育・労働など民間の関係団体、地域団体等は行政と一体 ・民間企業は啓発、一般事業主行動計画の策定や実現を呼びかけの対象 民間企業の実態は啓発の対象かもしれませんが、この施策は行政、事業主、国民のそれぞれが主体的に取り組むことを基本とするものです。行政に理解を示す関係団体と、一般の民間企業の扱いが極端に分化した表現は良くないと思います。 修正例 「また、民間企業に対し次世代育成支援の必要性について啓発を行うとともに、次世代育成支援に関する一般事業主行動計画の策定や実現を呼びかけ、支援していきます」 →「また、民間企業による(労働者の)職業生活と家庭生活との両立が図られる(ようにするために必要な)雇用環境の整備を実現するため、次世代育成支援理念の普及と一般事業主行動計画の策定支援を進めていきます。」	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御意見のとおり修正します。	子育て支援課
2	7ページ 1東日本大震災の影響 (2)震災による子どもや親への影響	アンケートの回収率を記入したほうがよろしいと思います。 県民アンケート:33.4%、子どもアンケート:42.1%	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御意見のとおり追加します。	子育て支援課
3	8ページ 震災の影響による変化 についての大人と子どものデータ 比較について	「増えた=1」～100点満点で評価という記述が少しわかりにくいため、 「個人のデータは「増えた=1点」「変化なし=0点」「減った=-1点」と点数化しました。それをすべて合計したのち平均して出したのがグラフのデータです。すべての人が「増えた」と評価すると100点となります。なお、県民アンケートと子どもアンケートは対象とする地域が少し異なっており、厳密に比較することはなかなか難しいですが、大人のほうがマイナスの影響を大きく指摘する傾向が見られました。たとえば、「友だちの人数」「趣味活動」を子どもは増えたとし、大人は減ったと答えていました。また大人は子どもより「家の中にいる時間」が増え、「屋外で活動する時間」が減ったと回答していました。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御意見を踏まえて、 「個人のデータを「増えた=1点」「変化なし=0点」「減った=-1点」と点数化し、それをすべて合計したのち平均して出したのが下記のグラフです(すべての人が「増えた」と評価すると100点となる)。なお、県民アンケートと子どもアンケートは対象とする地域が少し異なっており、厳密に比較することはなかなか難しいですが、大人の方がマイナスの影響を大きく指摘する傾向が見られました。例えば、「友だちの人数」「趣味活動」を子どもは増えたとし、大人は減ったと答えていますし、大人は子どもより「家の中にいる時間」が増え、「屋外で活動する時間」が減ったと回答しています。」に修正します。	子育て支援課
4	35ページ (4)子どもや地域の方々の参画 ①子どもの参画について	「一方、子どもアンケートによると参加の意欲は必ずしも高くない結果でしたが、「まちが好き」「地域が安全」「参加したい」「意見を聞いてくれる大人がほしい」については住んでいる地域によって回答に差があることもわかりました。「自分たちの意見で社会を変えられる」と答える子どもを増やしていくことが大切です。」にしてはどうでしょうか。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御意見のとおり修正します。	子育て支援課
5	41ページ 2計画の目標	『子どもと家庭にやさしい社会づくり』を 『子どもと家庭にやさしい福島県づくり』 と表現してはいかがでしょうか。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御指摘の件については、知事の附属機関である子ども・子育て会議の場において、「福島県づくりを目指すのは違和感がある」との意見があったこと等を踏まえて修正したものであり、原案どおりとします。	子育て支援課

No	該当箇所	意見(施策の提案)	県の考え方	関係課
6	40～41ページ 2計画の目標 85ページ～ V子育てを支える社会環境づくり	『震災を踏まえた子育て環境に関する調査研究・報告書』の最後で、【庁内での連携体制づくり】、【大学や学会などを含めた調査研究ネットワークづくり】について、提言をしております。「2. 計画の目標」の中の記述として、こうしたネットワーク体制づくりを目指すことについて記載し、P.85以降の「V. 子育てを支える社会環境づくり」の中に、「大学や学会などを含めた支援体制づくり」のような項目を追加できないでしょうか。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  【庁内での連携体制】については、4ページ「4計画の推進体制」に記載しているように、知事を筆頭とした福島県子育て支援推進本部のもと全庁的な体制で取り組んでいるほか、子育てに関する関係課による定期的な会議開催などを行っており、また、平成27年4月より「こども未来局」を設置し子ども・子育て施策に取り組むこととしています。 【調査研究ネットワークづくり】については、4ページ「4計画の推進体制」に行政と民間が一体となった次世代育成支援対策を推進すると記載していることを踏まえて、V-1-1(1)子育て支援環境づくりに関する啓発・調査等の2つ目を以下のように修正します。 「専門的見地からの意見や各種団体における現場の意見等を広く聴き、施策に反映させていきます。」 なお、ネットワーク体制づくりについては、計画を推進する中で取り組んでまいります。	子育て支援課
7	42ページ 3計画の基本方針	原発事故について、起こった後の放射線低減化の取り組みはもちろん大事ですが、それに加えて事故が収束していないことによる今後の事態に対しても監視等含め取り組んでいきます、という行政の姿勢をどこかに入れるべきと考えます。平たく言いますと、不安をあおるのではなく、安心を定着させるために、不慮の事態を避けるよう対処している行政の姿勢をさりげなく明確にしてはどうか、ということです。 記したほうがいいのかどうかの判断はお任せします。 「拡散した放射性物質について・・・」とありますが、これと同格でなくても、「事故が収束していないことによる今後の事態に対しても監視等含め取り組む」という姿勢を盛り込めないでしょうか。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御指摘の件については、上位計画である「ふくしま新生プラン」や「福島県安全で安心な県づくりの推進に関する基本計画」において取り組むこととしており、本県の子育て施策全般の基本指針である当該プランにおいては原案どおりとします。	子育て支援課
8	72ページ 2地域における子ども環境の整備 (1)遊び環境の整備	子どもは少なくとも10歳頃まで、外で、群れて、自由に遊び、幸せな子ども時代を生きなければなりません。しかし、子どもの遊び環境はあまりにも貧困で、その必要性を求める世論は高いとはいえません。 福島では放射能の影響から外遊びが制限され、そのことのゆえに子どもの遊び環境の重要性を他地域とは比べようもなく強く認識しています。福島県民の思いを具体的な施策につなげて、子どもが「外で、群れて、自由に遊ぶ環境」を全国に先駆けて作り上げてほしいと強く期待しています。 福島がモデルとなり、日本の子どもたちの未来が開かれていく。ぜひとも実現したいものです。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  御指摘の件については、行動計画上、IV-2-1(1)遊び環境の整備 に記載しており、本県においては「遊び」について注目されていることから、日本一遊び環境や体験活動の充実した県を目指してまいります。	子育て支援課
9	72ページ 2地域における子ども環境の整備 (1)遊び環境の整備～(3)子どもや青少年の健全育成推進のための環境づくり	(3)のスポーツ活動の項目だけが子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象とする地域スポーツクラブの設立としていますが、(1)の遊び環境の整備でも、また(2)地域における体験学習環境の推進にも、子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象とする地域・・・クラブの設立・育成・定着を支援する様な文言を加えてはいかがでしょうか。	このたびは御意見いただきありがとうございます。  当該プランについては、基本的に18歳未満の子どもを対象としたプランであり、高齢者まで対象とするような文言は趣旨に合致しないため原案どおりとします。 なお、73ページ(3)子どもや青少年の健全育成推進のための環境づくりの4つ目について、 「○ 総合型地域スポーツクラブ※の設立・育成・定着を支援するなど、地域におけるスポーツ活動を推進します。 ※ 総合型地域スポーツクラブ 地域住民が主体的に運営し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とする多様性を持ったクラブ」に修正します。	子育て支援課 スポーツ課

No	該当箇所	意見(施策の提案)	県の考え方	関係課
10	74ページ 2 地域における子ども環境の整備 (5)子育てしやすい居住環境・まちづくりの推進	<p>1. 子どもたちの健やかな成長、及び子どもやその親、妊産婦等の健康と病気予防のために、受動喫煙の危害防止対策が重要です。</p> <p>2. 乳幼児・保育園・幼稚園の園児の父・母・同居家族に喫煙者が多いと報告されています。保育園の前などで喫煙をしている母親などの姿は珍しくありません。家庭での対策や啓発はもちろん重要ですが、その知識普及・周知のためにも、幼稚園や小中学校を含め、これら保護者への禁煙促進の働きかけや啓発・講習等に焦点を絞ったプログラムが望まれます。</p> <p>3. 子どもだけでなく、保護者、職員、子ども施設の外来者の健康を受動喫煙の危害から守るために、また子どもたちに禁煙の模範を幼年期より示すためにも、施設敷地内の全面禁煙の徹底・遵守、また施設(園、学校、子ども関連施設等)外における催し等でも、その遵守・徹底をお願いします。</p> <p>4. とりわけ、通学路や道路、また食堂・レストランなどのタバコの煙から子どもたちを守る抜本的施策が不可欠です。受動喫煙防止条例の制定に向けた取り組み、及び飲食店やサービス業界等に、受動喫煙の健康リスクの以下のような明示の義務づけも必要で有効かと思えます。</p> <p>(1)「受動喫煙によるタバコ煙は非喫煙者、とりわけに子ども・未成年者・妊産婦に害を及ぼします。」</p> <p>(2)「受動喫煙のリスクのある場所に、子ども・未成年者・妊産婦及び非喫煙者は立ち入らないください。立ち入らせないください。」</p> <p>(3)出入口などに「子ども・未成年者・妊産婦及び非喫煙者の出入りはしないでください。」</p>	<p>このたびは御意見いただきありがとうございます。</p> <p>御意見を踏まえまして、IV子どもにやさしい環境づくり—2地域におけるこども環境の整備—(5)子育てしやすい居住環境・まちづくりの推進の項に以下のように追加します。</p> <p>「県、市町村、関係団体等が連携しながら、学校等子どもに関する施設における禁煙を推進するとともに、受動喫煙の機会を減らすための取組を実施します。」</p>	健康増進課
11	78ページ 3教育の充実 (3)確かな学力の育成	<p>国際社会に活躍する人材として育つ、異文化体験の奨励</p> <p>日本の若者の国際化は周辺アジアの国々と比べて遅れています。単に英語を小学校に導入すればよいというのではなく、異文化に接して行く。言葉は経験の中で慣れて獲得していくもの。福島が世界に名を知られたのを逆手に取り、積極的に子どもたちに異文化体験をすすめていく。</p>	<p>このたびは御意見いただきありがとうございます。</p> <p>御指摘の件については、行動計画上、IV-3-(3)確かな学力の育成の2つ目に「外国語教育の充実や国際理解教育に加えて、子どもたちが海外において異文化の人々と交流する機会を設けることなどにより、国際化の進展に対応できる人づくりを進めます」と記載しています。</p>	国際課 義務教育課 高校教育課
12	全般	<p>子ども参加の促進などのパートもあり、学会とのコラボレーションがいかされていると感じました！「啓発」という言葉がたくさん使われていましたが、個の支援およびセルフヘルプ・グループやピア・グループなど小集団のグループワークや研修などで、上からの啓発ではなく、自分たちが行動し体験することで気づきを得るような行動計画プログラムもぜひたくさん入れていただきたいと思えます。</p>	<p>このたびは御意見いただきありがとうございます。</p> <p>行動計画上、I-2-(2)震災被害等に関する子どもや保護者の心身のケア4つ目「震災後における様々なストレスを抱える青少年の支援のため～社会的自立を促進します」やIV-1-(2)子どもの参画による子育て環境づくりの推進などに記載しており、子ども目線での取組も推進してまいります。</p>	子育て支援課

No	該当箇所	意見(施策の提案)	県の考え方	関係課
13	全般	<p>県の次期計画、子育て支援で大人、社会対象に行なうことに加えて、子ども自身を対象にした、子どもにやさしい環境づくり、子どもの参画がうたわれている点はいへんよいことと思います。もう少し具体的な方向が見えるとよいが、グランドプランなので仕方ないかも知れませんが、もう少し踏み込むことができれば。</p> <p>(1)屋内の遊び場、冒険広場等は市町村の状況で組み合わせて設けていく。例えば、まだ放射能の不安が残る地域では、屋内冒険広場のような、もっと自由度が高く、また触れられない自然にも触れられるような、しかもプレーリーダーのいる屋内の遊び場と外の場があるような拠点。例えば川崎夢パークのような。</p> <p>(2)放課後児童クラブは学童保育の施設として福島県では普及していますが、より上の年齢の子どもの居場所が必要ではないか。ユースセンター、中高校生にも開かれた子どもセンター(石巻のライツのような)等のように。</p> <p>(3)子どもにやさしい環境づくり コミュニティ単位でモデル事業を展開することはできないか。市町村、または地域単位でいくつか手をあげるところの助成。子どもにやさしいコンテストの実施もふくめて。</p> <p>(4)放射能汚染のまだ残るところは局所的に高い場所等を自分たちで調べて安全をたしかめている。そういう診断活動を負の作業ととらえずに、子どもの環境診断から、子どもにやさしい環境へのコミュニティづくりを育むように支援していくことができればよい。</p> <p>(5)子どもの声を聞いて政策に総合的に反映できる、子どもコミッショナーの設置。</p> <p>(6)子どもフォーラムを市町村単位、県単位で年に一度開催し、子どもたちが市町村、県の行政施策に意見を言うことができる機会をつくる</p>	<p>このたびは御意見いただきありがとうございます。</p> <p>御意見は、計画推進の上で対応を検討すべき課題として受け止めさせていただきます。</p> <p>なお、行動計画上は、Ⅳ-2-(1)遊び環境の整備、Ⅳ-2-(6)子育て支援の拠点や子どもの居場所づくり、Ⅰ-2-(1)放射線に係る保健・医療体制の整備、Ⅳ-1-(2)子どもの参画による子育て環境づくりの推進などに記載しています。</p>	子育て支援課
14	全般	<p>全体的に昨年3月にまとめた「震災を踏まえた子育て環境に関する調査研究」結果を反映した内容になっておらず、一般的な内容の印象を受けます。放射線や子どもの体力低下以外の項目については、何故福島県で取り組まなければいけないのか、の根拠や地域特性を含んだ基本的施策・行動計画である必要があります。</p> <p>震災を踏まえた調査研究において記載したように「2012年就業構造基本調査(総務省)」によると25~44歳の女性の育児をしながら働いている女性の割合(有業率)は、福島県は56.8%と全国平均の52.4%よりも高い。子育ての中心は母親であるが、父親等の家族や若年者などのキーパーソンの協力も必須であり、彼らへの子育てに関する知識や実践の啓蒙および子育て支援に対する意識の向上を図るべく、市町村レベルのセミナーや演習の検討・実施が求められる。」「果物をたくさん食べる」はいずれも約3割の回答がみられたが、これらはカロリーオーバーや体重増加との関連が強いため、今後親子で意識・行動変容できるようなセミナーや調理実習の企画・運営実施が望まれ、同時にまた“早食い”、“大食い”、“ながら食い”、“勤め食い”の防止に向け、県民特性、地域特性を考慮した食育がもたらされる。」など、福島県民の方の状況や果物生産が全国でも1・2位を争う地域である特性などを踏まえながら、子どもと親への関わりを具体的に検討頂きたいと思えます。</p>	<p>このたびは御意見いただきありがとうございます。</p> <p>御意見を踏まえて、88ページ「2 子育てと社会参加の両立のための環境づくり」の【現状と課題】を以下のように修正します。</p> <p>「本県においては、育児をしながら働いている女性の割合は全国平均よりも高くなっており、結婚・子育てと仕事の両立を望む女性が多くなり共働き家庭が増加していますが、～」また、81ページ「4 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」の【現状と課題】を以下のように修正します。</p> <p>「～食習慣の乱れが指摘されています。福島県は、総務省「家計調査」において「果物」「めん類」「菓子類」等の購入金額が全国でも上位を占めるとともに、震災後は国民健康・栄養調査において「野菜摂取量」が減少していること等、今後、栄養・食生活と肥満との関連について、注視していく必要があります。加えて、～」さらに、82ページ(2)食育の推進の2つ目を以下のように修正します。</p> <p>「～推進するとともに、豊かな農林水産資源を積極的に活用し、食への感謝～」</p> <p>なお、当該プランは本県の子育て施策の基本指針となるものなので、具体の施策については計画を推進していく上で検討してまいります。</p>	子育て支援課 雇用労政課 健康増進課 健康教育課